

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成21年4月17日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

京 都 大 学 総 長

松 本 紘

事業区分	平成20年度・大学全体計画事業助成			
事業名	京都大学春秋講義の開催			
成果の概要	タイトルは「成果の概要/報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 無 有()			
会計報告	事業に要した経費総額	2,265,312円		
	うち当財団からの助成額	1,600,000円		
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 運営費交付金		
	経費の内訳と助成金の使途について			
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)	
	印刷製本費	454,650	454,650	
	通信運搬費	146,394	146,394	
	公告・宣伝費	856,128	856,128	
	謝金	258,600	258,600	
	施設使用料	456,300	65,700	
消耗品等	93,240	77,128		
合 計	2,265,312	1,600,000		

京都大学春秋講義（春季・秋季）の実施状況について（報告）

（総評）

「京都大学春秋講義（春季・秋季）」は、「京都大学教育研究振興財団」の後援を得て、京都大学における学術研究活動の中で培われてきた知的資産について、広く学内外の人々との共有を図ることを目的として昭和63年度より春季及び秋季の2回、京都大学の教員による連続講義（月曜講義、水曜講義）の形態で開催しているものである。

春季、秋季いずれも「月曜講義」は共通のメインテーマを設け、各講師の企画・構成により行い、「水曜講義」は共通テーマを設けず、各講師が時宜を得たテーマにより行っている。

春季の「月曜講義」では、「外から見た日本と世界」を共通のメインテーマに「最先端科学技術で見る美の世界」「地域づくりと防災の視点からみた日本とアジア」及び「トロイあの木馬か？忠誠心のジレンマ」について3名の講師が講義を行い、「水曜講義」では、「平安京の発展と洛西地区」「環境と化学」及び「持続可能型社会の住まいづくり」について3名の講師が講義を行った。

また、秋季の「月曜講義」では、「海」を共通のメインテーマに、「海からの贈り物」「海のギリシア文学」及び「観測とモデルの総力戦で海の全層を診る」について3名の講師が講義を行い、「水曜講義」では、「糖尿病の早期発見」「京都大学と京都」及び「裁判員制度が始まります」について3名の講師が講義を行った。

各講義終了後に質疑応答の時間を設けており、活発な質問が行われている。

春季講義には「月曜講義」3回、「水曜講義」3回の6回で延べ814名、秋季講義には「月曜講義」3回、「水曜講義」3回の6回で延べ938名、合計1755名の参加者があり、1回当たりの開催について146名の参加者があった。

参加者の意見聴取については、毎回講義終了後にアンケートを実施している。このアンケート結果等については、次回以降の企画に生かすこととしており、具体的には、春季水曜講義を桂キャンパスの船井哲良記念講堂で、秋季水曜講義を京都駅前のキャンパスプラザ京都で実施した。

また、昨年度より課題としていた広報活動についても、京都市営バス及び地下鉄に車内広告を出すとともに、講義テーマや、開催場所によってポスター等の送付先を工夫するなど広く市民に周知するよう努めた。

（今後の計画）

平成21年度の計画について、京都大学より「教育活動を通じた社会との連携協力事業」を更に進めるため、今後とも貴財団よりの助成をお願いする。